

◇ 平成29年度 ◇

# 危険物事故防止対策論文募集

消防庁の統計によると、平成28年中の危険物施設における事故発生件数は571件で、事故発生状況はここ数年変わっておらず、依然として高い水準で推移しています。このため、危険物関係団体・業界や消防関係行政機関では、事故防止対策の目標として危険物等に係る重大事故の発生防止を掲げるとともに、軽微な事故が多数発生するうちに重大事故も発生するという考え方から軽微な事故の発生防止にも積極的に取り組むこととしています。

このようなことから、危険物の事故防止対策を推進するため、危険物に係る事故防止や安全対策に関する論文を広く募集します。皆様の積極的なご応募をお待ちしております。

## 論文のテーマ

危険物に係る事故防止や安全対策に関するもの。

### 提言、アイデア、経験等

事故防止及び安全対策に係わる提言、アイデア、経験等に関するもの

### 職場等の安全対策

職場等における事故防止対策、安全活動等の自主的な取り組みに関するもの

### 事故の拡大防止

実際に経験した事故等における対応をふまえ、事故の拡大防止について考察したもの

### 事故防止に係わる知見の蓄積・教育方法

事故防止の観点からとらえられた危険物の貯蔵・取扱い上のノウハウの整理・分析事例及び教育（伝達）事例について

### 事故の分析

危険物施設において発生した事故の原因調査及び事例を分析、または、教訓とした、事故の発生防止対策、被害の拡大防止対策に関するもの

### 安全対策技術

設備、機器等の検査技術に関する安全対策  
事故に関するハザード（例えば、設計・整備・清掃不良、腐食、静電気火花）を除去するための防止対策及び対応に関するもの

### 危険性評価手法

危険物施設等のハザードを抽出し、危険性を評価する手法の活用例

### 危険物、少量危険物及び指定可燃物に係わる安全

危険物、少量危険物及び指定可燃物の貯蔵、取扱い及び輸送に係わる安全について

### 安全の科学技術

事故の防止対策及び対応策に関する科学技術の基礎及び応用に関するもの

### 事故防止対策・安全対策に関するその他のもの

## 応募資格

特に制限はありません。どなたでも応募できます。

## 応募締切

平成30年1月31日(水)必着



## 選考方法

学識経験者、関係行政機関の職員等による審査委員会において、厳正な審査を行います。

## 賞

消防庁長官賞	賞状及び副賞（20万円）	<2編以内>
危険物保安技術協会理事長賞	賞状及び副賞（10万円）	<2編以内>
奨励賞	賞状及び副賞（2万円）	<若干名>

※ 副賞は危険物保安技術協会からお渡しいたします。

受賞の表彰式は、危険物安全週間（平成30年6月の第2週）中に東京で開催される、危険物安全大会において行います。

## 応募方法

- ① 論文は、日本語で書かれたもので未発表のものに限ります。ただし、限られた団体、組織内等で発表された場合は応募可能とします。（一部に限り、既発表の部分を使用する場合は、その旨を本文中に明記してください。）受賞論文は、危険物保安技術協会の機関誌とホームページに発表されますので、必要に応じて関係者の事前の了解を取ることをお願いします。また、著作権等の問題を生じないようにご注意ください。
- ② A4(字数換算：1 ページあたり 40 字×40 行程度) 1 枚以上 10 枚以内程度としてください。なお、図表及び写真は、文中への挿入、本文と別に添付のいずれも可能です。ただし、本文と別に添付する場合に、字数換算をA4(1 ページあたり 1,600 字程度)で行い、全体を10枚相当分以内程度としてください。
- ③ 論文の概要を添付してください。
- ④ 論文は、「論文タイトル」、「氏名（ふりがな）」、「連絡先（住所、電話番号、FAX 番号、E-mail アドレス）」及び受賞論文発表時に明記する勤務先等がある場合の「勤務先名称及び所属」を記載した用紙を添付のうえ次のあて先（E-mail 可）までお送りください。
- ⑤ 共同で取り組んでいる活動の場合には、連名の応募も可とします。
- ⑥ 論文は、返却いたしません。

## あて先及びお問い合わせ先

**KHK** 危険物保安技術協会 事故防止調査研修センター  
〒105-0001  
東京都港区虎ノ門4-3-13 ヒューリック神谷町ビル  
Tel 03-3436-2356 Fax 03-3436-2251  
<http://www.khk-syoubou.or.jp/>



**主催** 消防庁、危険物保安技術協会  
**協賛** 全国消防長会、一般社団法人日本化学工業協会、石油化学工業協会、石油連盟  
電気事業連合会、一般社団法人日本鉄鋼連盟、一般社団法人日本損害保険協会  
公益社団法人日本火災学会、全国石油商業組合連合会（順不同）